

議題2（委員会決裁事項（規則第3条第1号））

大阪府立学校条例及び府立高等学校再編整備計画に基づく令和5年度実施対象校及び大阪市立の高等学校等移管計画における再編整備対象校（生野工業・東淀工業・泉尾工業）の募集停止時期について

標記について、別紙のとおり決定する。

令和5年11月13日

大阪府教育委員会

大阪府立学校条例及び府立高等学校再編整備計画に基づく令和5年度実施対象校
及び大阪市立の高等学校等移管計画における再編整備対象校（生野工業・東淀工業・
泉尾工業）の募集停止時期について

令和5年11月13日

大阪府教育委員会

1 大阪府立学校条例及び府立高等学校再編整備計画に基づく令和5年度実施対象校

(1) 令和5年度の方針

令和5年度は、特色ある教育活動を他校に継承・発展させる機能統合による学校の再編整備、統合整備による新校の設置、工業系高校の教育内容の充実に着手する。

(2) 機能統合により再編整備する学校

対象校 (所在地)	機能統合先となる学校 (所在地)	対象校 募集停止時期	機能統合 開始時期
にしのだこうか 西野田工科高校 (大阪市福島区)	いまみやこうか 今宮工科高校 (大阪市西成区)	令和7年度 入学者募集時	令和7年度から

(3) 統合整備により新たな工業系高校として開校する学校

対象校 (所在地)	対象校 募集停止時期	新校募集 開始時期	使用校地
ふせこうか 布施工科高校 (東大阪市)	令和7年度 入学者募集時	令和7年度 入学者募集時	現城東工科高校 校地
じょうとうこうか 城東工科高校 (東大阪市)			

(4) 工業系高校の教育内容の充実

- ・ 教育内容の充実方策として、以下のとおり、工業系高校における時代に即した基礎・基本への対応や工科高校における深化・接続コースの充実、工学系大学進学専科の拡充を進めることとする。実施時期は令和7年度入学者からとする。
 - 時代に即した基礎・基本への対応については、これからのものづくり人材に必要とされるデジタル技術や先端技術(AI、IoT等)を取り入れた教育を工業系高校で実施する。
(対象校：淀川工科高校、都島工業高校、今宮工科高校、工芸高校、茨木工科高校、藤井寺工科高校、堺工科高校、佐野工科高校)
 - 工科高校における深化コースは専門分野の学びの更なる深化のため、主に専門科目を充実させ、接続コースは大学進学への更なる対応のため、数学、英語等の科目を充実させる。
(対象校：淀川工科高校、今宮工科高校、茨木工科高校、藤井寺工科高校、堺工科高校、佐野工科高校)
 - 工学系大学進学専科については、堺工科高校に新たに工学系大学進学専科を設置する。
なお、今後、志願状況や学校の状況を見極めながら、工学系大学進学専科を設置していない工科高校への設置を検討する。
- ・ 生野工業高校・泉尾工業高校・東淀工業高校の再編整備により開設する新工業系高校(仮称)及び布施工科高校・城東工科高校の統合整備により設置する新校についても、時代に即した基礎・基本や大学進学に対応した教育を実施する。
- ・ 工業系高校のネットワーク化や企業等との連携の拡充について、工業系高校全体で取り組みを推進していく。

2 大阪市の高等学校等移管計画における再編整備の対象校(生野工業高校・泉尾工業高校・東淀工業高校)の募集停止時期

対象校 (所在地)	対象校 募集停止時期	新工業系高校(仮称) 募集開始時期	使用校地
いくのこうぎょう 生野工業高校 (大阪市生野区)	令和7年度 入学者募集時	令和10年度 入学者募集時 (予定)	現東淀工業高校 校地
いずおこうぎょう 泉尾工業高校 (大阪市大正区)	新工業系高校(仮称) の開校年度 入学者募集時		
ひがしよどこうぎょう 東淀工業高校 (大阪市淀川区)	新工業系高校(仮称) の開校年度 入学者募集時		

- ・ 生野工業高校・泉尾工業高校・東淀工業高校のうち、小規模化が進んでいる生野工業高校を令和7年度に募集停止する。
- ・ 泉尾工業高校・東淀工業高校は新工業系高校(仮称)の開校(令和10年度予定)に合わせ募集停止予定。

令和5年度実施対象校（案）「機能統合により再編整備する学校」「統合整備により新たな工業系高校として開校する学校」及び募集停止時期（案）の周知状況及び関係者等からの要望等について

1. 実施対象校（案）及び募集停止時期（案）の周知状況

<各校から>

- 臨時職員会議等で教職員へ説明
- 全校集会（校内放送）、メール等により在校生へ周知
- 説明文書配付により保護者へ周知
- P T A会長、同窓会長等の学校関係者へ説明

<教育庁から>

- 大阪府内公立中学校長へ説明
- 府内市町村教育委員会 学校教育指導主管部課長へ説明

2. 関係者等からの要望等

<布施工科高校・城東工科高校関係>

- 大阪府立布施工科高校同窓会有志一同、大阪府立布施工科高校P T A有志一同から令和5年9月15日付「布施工科、城東工科の統合における新校の校地についての提言」の提出（主な意見）
 - ・府内工業系高校の配置関係、布施工科高校の設置学科、ラグビーを通じた地域貢献、校地の面積などを考慮すれば、新校は現布施工科高校の校地に開校すべきである。
- 布施工科高校同窓会有志一同・P T A有志一同に対して10月23日及び11月2日に布施工科高校にて説明会の実施（主な意見）
 - ・統合後の校地については、関係者（在校生・OB・P T A等）の意見を聞いて決めるべきである。案の決定から最終決定まで数ヶ月しかなく学校関係者との議論の時間が短すぎる。
 - ・布施工科高校の在校生は9割が自転車通学であり、工業系高校の学校配置の検討にあたっては公共交通機関だけではなく自転車通学の利便性も考慮すべきである。
 - ・府内で唯一の建築設備系を有する布施工科高校の施設・設備を移設できるものではない。移設するより現在ある布施工科高校の施設・設備を使用すべきである。
 - ・布施工科高校はグラウンドを含め学校設備全般において充実している。学習環境やクラブ活動等を考えると利便性が高いと考えられる布施工科高校の校地を活用すべきである。
- 大阪府立布施工科高校同窓会有志一同、大阪府立布施工科高校P T A有志一同から令和5年11月7日に「布施工科、城東工科の統合案に関しての具体的なお願い」の提出（主な意見）
 - ・今後、城東工科高校の近くにモノレールができて志願者が増えるかもしれないとの主張であるが、数学的検証を行った結果、徒歩15分圏内であれば高校から最寄り駅までの距離と受験倍率との間に関係ないと推測できる検証結果を得ており、例えモノレールができても布施工科高校を希望する受験倍率が変わることはない予想する。
 - ・府教育庁は布施工科高校または城東工科高校を募集停止した場合、通いやすい工業系高校をピックアップしたデータを示しているが偏差値は考慮しておらず、現実的には1校の工

業系高校を選ばざるを得ない状況に陥ることが予想される。また、3年連続定員割れしている府立の普通科高校もある中、工業系高校を募集停止するのは疑問である。

- 工業系高校を統合することによって東大阪市・八尾市などのものづくりの産業が衰退していく心配がある。産業の衰退は府民の生活に直結し、府民の損益に大きく関わる。
- 魅力的なカリキュラム、学校生活を送るには準備が必要であり、統合時期については、モノレールの開業に合わせるなど、少なくとも数年の準備期間は必要である。

○ 一般社団法人大阪府設備設計事務所協会から令和5年11月8日付「大阪府立工科高等学校にて建築設備を学べる学科の設置を求める嘆願書」の提出

(主な意見)

- 設備関係等の担い手確保のため設備学科の存続を強く要望したい。

○ 富田林市在住の個人1名から新校の使用校地を現布施工科高校校地とすることを求める要望書の提出

(主な意見)

- 統合後の新校は布施工科高校の校地を使用してほしい。

<その他>

○ 大阪の高校を守る会から令和5年11月10日に西野田工科高校（全日制の課程・定時制の課程）、布施工科高校、城東工科高校、生野工業高校の存続を求める署名（計9,575筆）及び卒業生・旧職員等からの一言メッセージ集（計31名分）の提出

(主な意見)

- 公立高校の定員には「ゆとり」があって当然。「定員に満たない」ことを理由に、廃校するなど道理がなく、西野田工科高校（全日制の課程・定時制の課程）、布施工科高校、城東工科高校、生野工業高校の募集停止を撤回すること。
- 大阪の産業を支える人材を育成している工業系高校の統廃合を行わないこと。
- 少子化を理由に府立高校の再編整備を進める前に、少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実施や学校の小規模化など、教育条件の改善を行うこと。